

群作用のある量子化：スペクトル解析 対 変形理論

M. Pevzner

Abstract

変形理論か，あるいはシンボル解析か？

等質空間に対して対称性を保った量子化を行う際，変形理論とシンボル解析は互いにどの程度，他方を補うものであるのだろうか？その背後にあるリー群の表現論の観点から見ると，この答えは一見して思いつくことよりもずっと複雑であり，プランク定数に関する漸近展開に帰着することができないことがわかる．この概説論文の主な目的は，それぞれの手法の目標に関するヒントを与え，これらの手法の共通している部分を明らかにし，それらが導く結果についての比較を行うことである．